みんなの広場

Tokorozawa ものしりウォーキング ㉙ 山口・菩提樹

現在の山口は、江戸時代には岩崎村、堀之内村、町谷村、打越村、氷川村、菩提木村の各村に分かれていました。これらの村名は地名として地図上から消え、今ではわずかに自治会の名称として残っているだけとなりました。

名木 菩提樹

山口の西方は菩提樹という地域で、江戸時代には菩提木とも書きました。地名の由来は、村内に菩提樹の大木があったことによると言われています。菩提樹自治会館近くの篠樹神社境内には、ゆかりの菩提樹と昭和6年に建てられた「名木 菩提樹」の石碑があり、地名の由来をしのぶことができます。近くの密厳院には「菩提樹村の由来」碑も建てられています。

昭和50年代までの菩提樹は水田が広がっていました。水田は、菩提樹池のある谷間から密厳院の門前を経て、東隣の町谷の方まで連なっていたといいます。狭山丘陵の地形は、開析（河川の浸食作用により谷などが刻まれていくこと）により幾つもの谷がつくられ、谷間の周辺からは湧き水が出て湿地ができたり、幾つもの流れが集まって小川ができたりしていました。人々はそうした水や土地を利用して、昔から水田耕作を営んできました。

谷間の低地や湿地を谷戸あるいは谷津といい、そうした場所にある田んぼを谷戸田・谷津田といいます。菩提樹池のある場所は、小字を「堰入（せきいり）」といいますが、「入（いり）」は谷戸の意味で、谷戸を堰き止めたところともとれます。狭山丘陵内には、このような谷戸にちなんだ地名が数多く見られ、一つ一つに名前が付けられていました。菩提樹だけでも、セキイリのほかユミガヤト、マトバヤツ等の呼び名があります。

菩提樹池は、地元の人たちの間で「セキイリの池」と呼ばれてきました。谷戸田があったころは、池の水を調節し田用水として利用していました。

現在、菩提樹池は自然観察や散策の格好の場所となっていますが、谷沿いを歩くと人びとが自然の恵みを利用しながら農業を営んできた、かつての姿をかいま見ることができます。

菩提樹池

街かどズームイン Zoom in

▶皆さんからの「街かどズームイン」情報を募集▶採用者には事前に連絡します▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内で▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「山」▶山といえば登山。縦走や低山ハイク等、楽しみ方はいろいろです▶絶景の山を眺めながらのドライブもすてきですよね▶海辺の砂浜で作る大きな砂山は子どもたちの夢の城です▶皆さんの山に対する思い出や、体験談をお寄せください▶締め切りは９月13日(金)必着▶住所、氏名、年齢、電話番号を明記▶送り先：〒359-8501・並木１-１-１所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係

▲夏休み中の子どもたちが参加して、雑木林の中を歩きながら自然観察をした「環境ふれあい教室」。
８月20日(火)／いきものふれあいの里センター周辺

▲６年ぶりの再開に、約２万5,000人が詰めかけ踊りを楽しんだ「夏の市民まつり納涼盆踊り大会」。
８月14日(水)／西武ドーム

▲猛暑の中、８kgもある防火着を身にまとい消火訓練に挑戦。「向陽中学校・３daysチャレンジ」。
８月12日(月)～14日(水)／消防本部

▲包丁の構造を知り、手入れ方法を体験した「出張リサイクル工房・包丁研ぎ講習会」。
８月８日(木)／新所沢公民館

誰でもエッセイ

テーマ“昆虫”

ベランダの客

和ヶ原・香坂　彪

何もないベランダにも、結構虫が迷い込んでくるものです。

アゲハチョウやセミ等の大型のものから、マメコガネやアリ等の小型のものまでさまざまです。所沢は、昆虫の食草が豊かである証拠でしょう。

これら訪問客の中で感動したのは、クサカゲロウです。薄緑色の細い体とそれを覆う透き通った網目状の羽、ベールに包まれた柳腰の美女です。５月中旬の小雨の朝、雨だれをなめているようでした。

この虫の卵は優曇華といい、花のように見えるそうです。それほど珍しいものではないらしいので、見つけてみたいと思います。

クワガタの冬眠

狭山ヶ丘・田中　真由美

私の実家の狭山で、ここ５年ぐらい続いている“習慣”のような出来事があります。それは、クワガタの冬眠です。しかも、毎年だいたい秋に入るころ、玄関にクワガタがやってくるのです。

初めはゴキブリかと思ってびっくりしましたが、よく見るとコクワガタのメスで、中に入れてもらいたくて玄関にやって来たような気がして、寝床を作ってあげたのがきっかけでした。

家族全員、生き物は好きなので、そのクワガタをかくまってあげると土の中で冬を越すのです。

残念ながら私はクワガタに触れないので、主に母と妹がえさや土の世話をしています。そんな母と妹を見込んで、毎年玄関先に助けを求めてやって来るのだと思うと心が和みます。

母とヒグラシ

若狭・大沢　美江

薄暗くなった道の向うに、母がかっぽう着姿で立っている。「ごはんよ」と呼んでいる。

石けりや縄跳び、かけっこ等をして存分に遊び私たちは汗だらけの顔になり、汗でぬれた髪の毛が額にはり付いている。

「さよなら三角またきて四角、四角は白い、白いは豆腐…」。母と並んで歩きながら遊び歌を口ずさむ。「お父ちゃん帰ってる？」。「そろそろでしょ。暗くなると心配するからね。」ヒグラシが母と私の背中を押すように鳴いていた。

いつの日であったろうか、大人になった私に母がぽつりと言った。「ヒグラシの鳴き声は心をさみしくさせるわね」。

セミのはかない命に人の命を重ねていたのだろうか。今、しみじみとあの時の母の言葉が私の心に染みてくる…母はもういない。

蚊の役割

東狭山ヶ丘・伊藤　平八

日照り続きで植木鉢の乾きに見かねて、小さな庭に出て水を打つ。その後、必ずといってわが柔肌がかゆくなる。思わずかくと数箇所、蚊の吸血の印が憎々しくはれあがっている。慌てて薬を塗り込み、かゆみを和らげる始末。

先人いわく「この世に一物として不必要な物は無い」と言うが、蚊はいったいこの世の何の役割を背負わされているのだろうか。

プーンと音をたてて飛んできて、ぴたっと私の腕にとまり吸血を始める蚊とにらめっこ。この小さな生き物を打つべきか、献血すべきか赤くなる蚊の腹部を見つめながら命を考える。

父が教えてくれた遊び

北秋津・小針　初美

三重県津市での遠い昔の懐かしい思い出です。小学３年生の春になったら父がいろいろな遊びを教えてくれました。私が最も気に入ったのはトンボ採りです。

長い糸の先にギンヤンマのメスの胴をくくり付け、一方の端を手に持ってトンボをくくるくると飛ばしていると、必ずオスのギンヤンマが近づいてきます。やがて２匹はガシャガシャと音をたててもつれ、地面に倒れこんだところを手で伏せて捕まえます。

捕まえたトンボはかごに入れないで、左手の指の間に４枚の羽をそろえてはさみます。幾つも並んだギンヤンマの緑色の大きな目を見るとドキドキしたものでした。

「昔とった何とやら…」で、今でもセミやトンボを手で捕まえるのが上手です。

カブトムシ？

糀谷・加藤　フサ子

長く住んでいた宮本町から、この糀谷に移り住んで早８年が過ぎようとしています。

引っ越しから２か月が過ぎたころのある蒸し暑い夜、玄関の横のところに大きな虫が２匹飛んで来たので「あっ、カブトムシ！」と思い捕まえました。子どもたちに「やっぱり緑の多い三ヶ島だね。カブトムシが飛んで来るぐらいだから」と言いつつ明るいところで見てみたら、なんと大きなゴキブリでした。びっくりして大騒ぎ。

よりによって、あの一番苦手なゴキブリをカブトムシにまちがえるなんて。あー一生の不覚、誰にこの怒りを…。夏がくるたび忘れようにも忘れられない、泣くに泣けない、笑うに笑えない思い出になってしまいました。

昆虫の合奏

花園・横沢　三夫

所沢に住んで37年、小庭のあるわが家はささがら草木園といった風情だ。

立秋を過ぎて涼しい風が吹き出すタ方ともなると、落ち葉の下や木の葉の陰に潜む昆虫が時を得たように一斉に鳴きだすから不思議である。庭で越冬したであろうコオロギ・スズムシ・クツワムシ等の合奏はそう言われぬ美しさで、わが家の初秋の風物詩である。

夜、外出からの帰り、わが家に近づくとうるさい程の合奏で迎えてくれる。夜半まで鳴き続けるので、近所迷惑にならないかと気がもめるほどだ。

子ども時代、信州の田舎でチョウやバッタ等を追い回し、高校の夏期製作で昆虫標本が入賞したこともうれしかったが、採集の山道で自分の前前へと道しるべのごとく飛んでは止まるハンミョウの美しさが目に焼きついている。

家庭菜園のキャベツやニンジンの葉を食い荒らすチョウ類の幼虫には腹が立つが、秋の夜長に美しい調べを奏でてくれる直翅目系の昆虫はかわいくてたまらない。

なぜ虫を飼うのか？

牛沼・秋田　伸江

私は虫が大の苦手！ましてや家の中で飼うなんて…。ところが虫好きのパパの影響なのか、５歳と２歳の息子たちも大の虫好き。

家の中には10種類以上の国内外産のクワガタやカブトムシ、それらの幼虫が所狭しと並べられています。世話は５歳の息子の係。パパは帰りが遅いので、結局私が手伝うはめに。

それなのに、なぜ虫を飼うのか？今、都会では虫を見ることが難しい時代。所沢ではまだたくさん虫が採れるんです。せっかくこんなに恵まれた環境に居るのだから、息子たちにいろいろ経験してほしいと思ったんです。

大人になって、自分の子どもに「パパの子どものころは…」って、いろいろ教えてあげてほしいのです。これからも息子たち、いろいろ経験していくつもりです。

次回のテーマは「山」です

はつらつところ野老っ子

箏（こと）を身近な楽器として楽しんでほしい

横山　裕子（ゆうこ）さん
（宮本町在住）

『箏』といえば、正月に着物を着て弾くものというイメージをもたれている方が多いのではないでしょうか。古典的なイメージが強い箏の世界で、新しいものに積極的に挑戦し、伝統の箏の世界を大きく広げているアーチストがいます。今回の野老っ子は、箏演奏家の横山裕子さんを紹介します。

横山さんが箏演奏家になろうと決意したのは大学時代、邦楽部での活動がきっかけでした。「箏と聞いただけで皆さん引いてしまうんです」。そんな箏に対する固定観念を一新したいという思いから、ピアノとのジョイントコンサートやジャズを取り入れたコンサート等、国内はもちろん海外でも積極的に活動され、新しい箏の世界を展開しています。

そして平成11年には、ご自身で企画・構成・作曲を手がけたコンサート「ことのね　ことのは　うつくしのゆめ～箏と語りで紡（つむ）ぐ与謝野晶子『みだれ髪』百年～」を大阪で開催しました。このコンサートは昨年６月、地元ミューズでも再演され好評を得ました。新しい箏の世界を知ったお客さんからは「次回は、金子みすゞで」という多くの要望が寄せられました。そして先月、ミューズで２度目となるコンサート「金子みすゞ　箏コンサート～箏と語りで甦（よみがえ）るみすゞの世界～」を開催しました。

コンサートのようす

晶子やみすゞの作品とその生涯を語りと箏の音楽でたどることについて「お客様に、その人となりを知ってもらい、箏の音色と言葉の調和を楽しんでほしい」と話します。

横山さんが所沢に越してきたのは昭和61年。当時は、寝に帰るだけの生活で、所沢への思いも薄かったそうです。ある日、ご自身がお酒好きなこともあり、仲間と所沢産の米でお酒を作ろうと話が持ち上がりました。これが皆さんご存知の『ゆめところ』です。この活動がきっかけで多くの人と知り合い、所沢との関わりも深まりました。「今では一人前（！?）の所沢市民となりました」と所沢をこよなく愛する横山さんでした。

リサイクルふれあい館 不用品ガイド

●譲ります　▽籐（とう）のついたて▽木製机▽子ども用着物着付け練習用ボディ▽男性用乗馬ヘルメット・靴▽大正琴▽琴▽トレーニング機器（腹筋台）▽乳幼児用背負子▽組み立て式防音室▽大人用一輪車▽オープンレンジ▽旅行トランク

●求めます　▽大型テレビ▽大人用マウンテンバイク▽子ども用自転車▽ノートパソコン▽古い柱時計（大きめの物）▽手押し車いす▽折りたたみ囲碁セット

受付方法　９月５日(木)から電話による先着順で紹介します。ただし、利用者は所沢市民に限ります。

休館日　月曜日、祝休日

申し込み・問い合わせ　リサイクルふれあい館（☎944-0003）

ご覧ください

■テレビ埼玉
所沢リポート
９月27日(金)／①午後５時30分～40分②午後10時15分～25分放映

■シティケーブルネット
広報ところざわ テレビ情報館
９月19日(木)～／①午後１時55分～２時②午後９時55分～10時放映

広報テレビ番組